

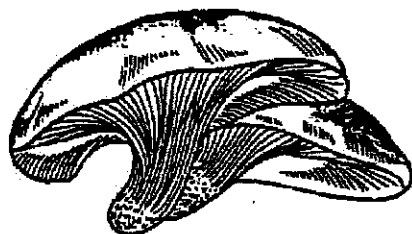
# ひらたけ栽培

## 原木樹種

・エノキ・ヤナギ・ヤマクワ・シデ・ミカン  
・太さ10cm以上を用いる。

## 原木伐採と玉切り

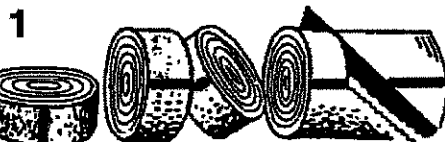
・伐採は12月～3月に行う。  
・乾燥し過ぎないように注意。  
玉切りは、植菌の当日に行う。



## 植菌の方法

### 短木栽培：オガ菌を使用する

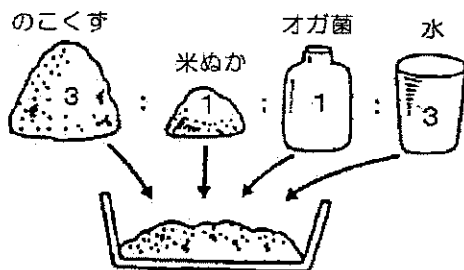
原木の断面にのこくず・米ぬか・オガ菌・水を混ぜた混合種菌を植えますが、植菌後の移動が困難なため、ホダ木作りをする場所で植菌します。植菌作業は、3月下旬までに終わらせます。（遅いと秋に発生が遅れる。）



1 玉切りの厚さは12～15cmを基準とするが20～30cmでも可能。玉切る前にチェーンソーで縦に切れ目を入れておくと積み重ねるときに便利。玉切り時に出るのこくずは、混合種菌作りに利用する。

### 2 混合種菌の作り方

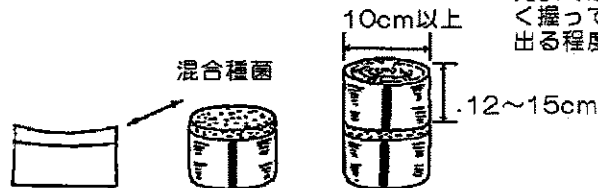
新鮮なのこくずを3：米ぬか1：オガ菌1：水3：（容積比）の割合



最初にオガ菌を丁寧に碎き、次に米ぬかを混ぜてからのこくずを混ぜ、最後に水を加えよくかき混ぜる。水の量は混合種菌を軽く握ってみて、指の間から水が少しにじみ出る程度とする。

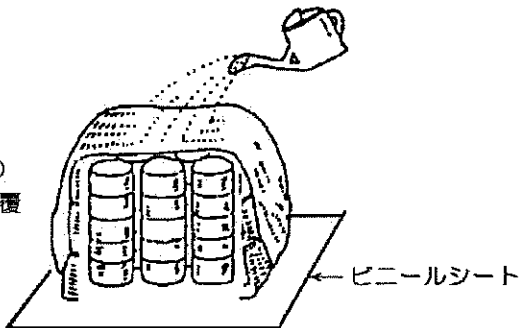
### 3

混合種菌を5ミリ～10ミリ位の厚さで木口に塗り付けサンドイッチにする。



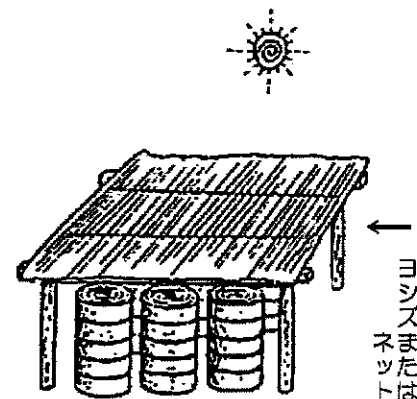
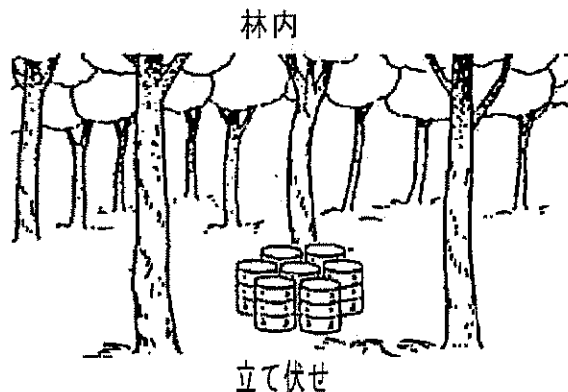
4 3～5段積み重ねて、立て伏せを行う。（地面にビニールシートを敷くと良い）

植菌終了後、コモやネット・ゴザで被覆後散水し、濡らして保湿する。梅雨前には取り除く。



## 伏せ込み・管理

裸地ではヨシズや遮光ネットで被覆します。林内でも庇陰と風通しに気をつけ、高温多湿にならないようにします。乾燥が激しいようであれば葉のついた小枝などを掛けるようにします。雨が長く降らない場合は定期的に散水します。



## 発生操作・準備

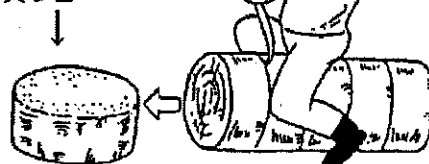
短木栽培は、植菌年の9月下旬～10月上旬に分解し床伏せを行います。

発生場所は水はけがよく、水利の便利な所を選びます。

裸地では土を盛り上げてうねを作り、地面には土ばかま防止のネット・畳表・ゴザを敷き、その上に植菌面を上にしてホダ木を並べる。直射日光が当たらないように、ダイオネットでトンネルハウスを作る。

ホダ木の間隔は、30cm位あけておくと採取しやすい。

ひらたけの菌糸で真っ白



きのこが発生し始めたなら1日おきくらいに少量ずつ散水して保湿につとめることが、きのこをたくさん発生させるコツです。発生間隔は、10日～15日位。生育が早いので、時期にはこまめに見廻る。

直射日光を防ぐ

